

A faint, light green outline map of Japan is positioned in the background, spanning across the middle and right portions of the page.

安心して 声を発せられる 地域づくり 支援事業 報告書

公益財団法人信託資本財団

新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業

～近畿圏における生活支援事業～

特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター

2021.5 → 2022.2

特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター について

2005年7月立ち上げ、2006年11月NPO法人化。
「意欲する人」がつながれる場をつくることを目的
に、NPO相談支援やネットワークづくり、まちづくり
活動に取り組む。

ある高校生ボランティアのつぶやきから、2013年に
無料学習支援「三田まちの寺子屋『まなびあ』」を地
域住民や学生と協働で立ち上げ。その後、地域住民
とともに2017年より子ども・地域食堂「まかない
キッチン」をスタート。2019年12月より、地域日本語
教室「北神日本語教室」を神戸市北神地域で実施。

「子どもの居場所がまちの中に多くあって子ども自
らが選択できる」ことと「居場所同士が行政区を超
えてゆるやかにつながっている」状態の実現を目指
し、「安心して声を発せられる地域づくり支援事業」
として公益財団法人信頼資本財団「休眠預金等活
用新型コロナウイルス対応緊急支援」助成事業に
応募し、採択。本冊子は、2022年2月までに取り組
んだ助成事業内容をまとめ、作成した。

*本冊子では、社会福祉協議会など地域福祉やコミュニティづくり、子ども食堂などの支援を行っている団体を「支援団体」として記載しています。
また、市内の一定区域に住所があり、地縁にもとづいて形成された団体を「地縁団体」と記載しています。

2020年、新型コロナウイルス感染症が全国を襲い、学校一斉休校・緊急事態宣言の発令を皮切りに、社会は大きな混乱に陥りました。2022年2月現在もこの混乱は収まることなく、ざわざわとした不安として

社会に横たわっているかのようです。

当法人は中間支援の活動に加え、学習支援や子ども食堂、地域日本語教室などの直接支援の活動を通して、いくつもの困りごと・課題と出会ってきました。

コロナ禍で向き合った課題の例

1 給食がなくなり、食の不安が出た子のケース

2020年4月、生活保護世帯の中学生の欠食状態がわかり、週2回地域住民と晩ご飯を食べる機会と、週1回ボランティアによる料理教室を実施しました。関係性ができることで普段話さないことについて打ち明けられるようになり、支援策を検討することができました。

2 自身の置かれた状況を適切に伝えることができずにいたケース

2020年7月、日本語教室から派生して「外国人住民向け生活相談会」を実施しました。自分の体調を説明できないから病院に行けていないとの訴えがあり同行支援を行ったところ、結核が見つかったという事例もありました。

3 制度のはざまにいるがゆえに制度対象から外れていたケース

2021年3月、公営住宅の子育て世帯を対象とした無料食材提供企画（フードパントリー）を実施し、おおよそ半分の家庭に食材をお渡ししました。「コロナ禍で転職して所得が半分にになり、誰にも相談できず困っていた。」という声が聞かれました。

どの課題も、安心して誰かとつながれる機会が「まちの中にない」ことが原因

これらの取り組みを通して、コロナ禍で「自分ががんばらないと」と我慢を強いられ、声を出せずに苦しんでいる子ども・若者や家庭の「声を拾えていない」のではないかと感じました。そのためには、困っている人自身が誰かを頼ろうとする「助けてコミュニケーション力」を高めるために、安心できる人と出会える「一歩目の機会」を作ることが早急に必要ではないでしょうか。

そのとき重要な役割を果たすのは「地域」だと考え

ています。普段からの何気ない、あたたかな気遣いの積み重ねによって、いざというときに「〇〇さんに頼ってみよう」と感じてもらえるのではないかと。そのような「安心して話せる地域住民と出会える場をまちの中に多様に増やす」ことが、困りごとをもつ人たちの孤立化を防ぎ、困りごとの「重症化」を少しでも予防できるのではないかと。

「安心して声を発せられる地域づくり支援事業」はこのような背景からスタートしました。

安心して声を発せられる地域づく

取り組むエリア

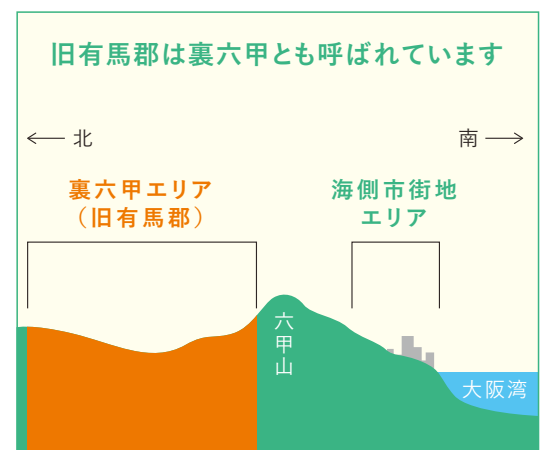
旧有馬郡（裏六甲）

現 三田市・西宮市北部・神戸市北神地域

地域の特徴

今は行政区が分かれています、もともとは六甲山の裏にある「旧有馬郡」としてひとつの文化圏でした。また、田園地域かつ大阪・神戸のベッドタウン

という共通の特徴があり、六甲山を隔てて海側の市街地から離れているため、仕事場や買い物、レジャーなど生活圏域を共にしているエリアです。



り支援事業 について

裏六甲子ども・若者の
居場所ネットワークによって
「誰かを頼ってもいい」と
安心して思える地域へ

取り組みの内容

旧有馬郡（裏六甲）の現状	理想とする状態
子ども・若者やその家族、地域住民が地域の「居場所」を知らない。	学習支援や子ども食堂など「居場所」の存在を知り、選んで行くことができる。
子ども支援に関わりたい／立ち上げたい人が、相談する場所を知らない。	地域事情に詳しく、無料で気軽に相談できる、常設の相談支援の場所が身近にある。
行政区が分かれていることで、子ども・若者支援団体同士のつながりがなく、近隣にどのような取り組みがあるのかを知らない。	子ども・若者支援者同士が気軽に相談や情報交換ができ、お互いのノウハウや資源を分かち合える関係ができる。
1団体だけでは規模が小さく、できることが限られている。	・「大きな力」となって企業や市民、行政などに働きかけることができる。 ・圏域内で人材・食材などの資源が循環される体制ができる。

裏六甲子ども・若者の居場所ネットワーク

上表の実現を目指したものが、「**裏六甲子ども・若者の居場所ネットワーク**」です。裏六甲という圏域単位で、子ども・若者の居場所づくりに取り組む人たちがゆるやかにつながることによって、情報や人材、食材などのさまざまな資源を分かち合い、相互に高め合うことのできる仲間づくりに取り組みました。

理想とする状態になるための具体的な取り組み

- 1** **であう場をつくる（P06）**
 子ども・若者支援に関心ある／既に取り組んでいる人が集まり、気軽に情報交換ができるような、ゆるやかにつながることができる場をつくりました。
- 2** **まなぶ場をつくる（P08）**
 支援者自身のスキルアップと情報のアップデートを目指し、子ども・若者の居場所づくりに共通するテーマに関わる専門家を招いた研修会を開催しました。
- 3** **地域資源が集まる場をつくる（P12）**
 自治会や民生児童委員、消防団などの地縁団体や、店舗・事業所など地域の「子ども・若者支援と直接の関わりのない人たち」の力が発揮される場をつくりました。
- 4** **地域のつながりをつくる（P16）**
 NPO・市民活動団体（支援者）や地縁団体、行政、支援団体など、同じ地域で子ども・若者支援に携わっている、多様な立場の人がつながることができる場をつくりました。

安心して 声を発せらる 地域づくり支援事業で 取り組んだこと

子ども・若者が一人でも安心して行くことができる居場所を、裏六甲エリアにたくさん生み出すための取り組みを行いました。活動の立ち上げや運営の相談支援、資源コーディネーションなどの個別相談支援に加え、さまざまな支援者が一同に介し「ゆるやかなつながり」が生まれる多様な場づくりに取り組みました。

場づくりでは、「であう場」、「まなぶ場」、「地域資源が集まる場」、「地域のつながりをつくる場」の4つを組み合わせました。地域で活動する人が気軽に集まれるような「であう場」では横の広がり、あるテーマで考えを深める「まなぶ場」では縦の深さを求め、それぞれ掛け合わせることでよりしなやかな支援者同士のつながりを生むことを目指しました。企業や地縁団体、学生など、今回のプロジェクトでご縁のあったさまざまな人の声を聞き、それぞれの得意とすることを地域につなぐきっかけとなる企画を作り、それぞれが主体的に参加できるような「地域資源が集まる場」を作りました。そして、裏六甲の多様な人達が集まる「地域のつながりをつくる場」での対話を通して、子どもを真ん中に置いて考えるまちづくりを目指しました。

であう場をつくる



Step.1／2021.10.16

自由なテーマで、まずはお互いを知る

ねらい

「お名前はよく聞くが会ったことはない」、「知り合
いだが活動についてはあまり知らない」という声に
対し、圏域の子ども支援者同士が、まずは顔見知り

になってほしいと願って企画しました。お互いの理
解が深まるよう、肩肘張らずに話ができる環境づく
りに取り組みました。

当日の流れ

まず、問題意識や課題、取り組み例について、それ
ぞれ自己紹介を兼ねて発表しました。支援者同士が
情報交換できる関係づくりとネットワーク構築が必要
だとそれぞれが認識することができました。

後半は、「ネットワークというキーワードを踏まえて
今後やってみたいこと」を考え、発表しました。それ
ぞれの発表を参考に、今後のネットワークづくりに
大切な要素を整理しました。

得られたこと

「子ども支援者同士のネットワークづくり」がこれか
ら必要だ、との声が多くありました。LINE公式ア
カウント《裏六甲子ども支援ネット》を準備し、子ど

も支援者への情報提供ができる環境を整えました。
また、「広報」の支援が必要だと回答した参加者も多
く、次回のテーマとすることにしました。

Step.3／2022.2.5

支援者同士が 連携することで できるようになること、 したいこと

ねらい

協働をテーマにした講座(P10参照)の振り返りも兼
ねて、「子ども支援者がつながってできることはなに
か」を探る座談会を企画しました。「関係性の深め
方」を参加者で考えました。

当日の流れ

参加者から「お互いにコミュニケーションをとること
が大切」との声が多く出たことを承け、他の人と関係
性を作る上で大切にしたいことや、関係づくりがうま
くいくときといかないときの違いにある背景を探り
ました。思い込みや自分自身が正解を決めてしま
うとコミュニケーションが進まないのを、心を開いて相
手に近づいていくことの大切さが語られました。最
後に「子ども支援者同士が、つながりを深められるよ
うにどのようなことをしていきたいか」と、今日考え
たことの振り返りとを合わせて話し合いました。

子ども食堂、学習支援、遊び支援など、「子どもの居場所づくり」は多様に行われています。しかし、団体同士が交流したり、他の団体の取り組みやその背景にある「支援者の思い」を知る機会はありませんのが現状です。

そこで、子ども支援に取り組む人たち同士が顔見知りにな

ってざっくばらんに話せる関係となるような、気軽な出会いの場としての「三田北神子ども支援者座談会」を企画しました。支援者同士が自由に語り合いながら「日頃の悩み」や「活動のちょっとしたコツ」を分かち合える仲間づくりを目指した企画です。

Step.2 / 2021.11.25

活動を広く知ってもらうには

ねらい

第1回のアンケートで「動画などを使って、どうやって活動を広げていくかを考えたい」という声がありました。地道な情報発信からデジタルツールの活用

当日の流れ

自団体の活動報告と、広報に関する事例を発表しました。イベントの参加募集チラシを見せ合ったり、スマホ画面を確認しながらSNSでの情報発信について話し合ったり、それぞれの取り組みを紹介し

得られたこと

「これから取り組むべき広報のイメージができた」、「ターゲットの考え方や、将来的な広報のあり方を考えるきっかけになった」との声がありました。スタッフ

法まで、誰に、どのような情報を届けるのかを考えるため、「活動の広報」をテーマとした座談会を企画しました。

て良い点を考え合いました。

また、Googleマップに活動情報を掲載することでより多くの人に知ってもらえるため、Googleビジネスプロフィールへの登録方法を紹介しました。

や人材の集め方に関する支援をどう行うか、というのが今後の課題となりそうです。

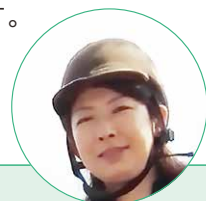
得られたこと

協働を考える上で、まずは相手を知ることの大切さを考える時間になりました。自分を知り、相手を知ることの繰り返しがお互いへの尊重の気持ちの芽生えとなり、その積み重ねが「信頼」へとつながり、協働の体制が整う、といった流れが見えたように感じました。



企画担当者 小宮真希より

「話し合いから何か生まれる場」を目指して企画しました。その場で出されたアイデアから《裏六甲子ども・若者の居場所リンク集》を作成し、当団体のホームページ上に公開できたことに喜びを感じています(P19参照)。また、「動画の編集について知りたい」という要望もあり、時代の要請に添った支援の必要性を感じました。今後機会があれば、プロの講師を呼ぶなどして企画を実現したいと考えています。



まなぶ場をつくる



Step.1 / 2021.9.22

活動の「リスク」を考える

講師：田村 太郎さん／一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事



ねらい

活動を行う上で「リスク」を考えることは大切なことです。ただし、リスクを考えすぎるあまり活動ができなくなってしまうのは本末転倒になってしまいます。リスクを否定的に考えすぎるのではなく、正しく向き

合うことで「もしも!？」の時に迅速に状況を判断し、個人や組織としても適切に対応する力をつけるため、「もしも!？の時に応える力!～リスクマネジメント講座」と題した講座を開催しました。

内容

東日本大震災をはじめ数多くの復興支援の現場に携わった田村太郎さんより、活動現場で起こりうる危機対応の考え方とその手順をお話いただきました。危機対応を考える上で、①運営メンバーだけではなく「多様な声を拾って」行うこと、②どんな小さいことでも「リスク」となりそうなことを予測すること、③「うっかり」や「みんなやってるから」などに特に注意しながら、回避・軽減できるものから優先順

位をつけて対応策を考えること、④どうしても回避できないことには予め復旧計画を考えておくこと、の大切さについて、豊富な実践例をユーモアを交えて説明いただきました。

最後に、今日学んだことの振り返りも兼ねて「自団体でまず取り組みたいこと」を考え、グループ内で分かち合いました。

参加者感想

- 今までボンヤリとしていた「リスクマネジメント」について、具体的に何をどうすればいいのかよくわかりました。
- 小さなリスクについて考えることも大切ということを学びました。日々の業務の改善につながると思います。
- ヒヤリハットを少しのことでも記入し、できるだけリスクを回避、リスクを少なくしたい。
- 活動拠点を移したときに、避難方法や経路を考えてみたいと思いました。

ふりかえり

リスクを過剰に捉えて活動へ二の足を踏んでしまったり、「慣れ」によってリスクに対する認識が薄れてしまうことがあります。リスク対応の考え方を学び、小さな気づきをメンバーで情報共有することが、何よりの第一歩ではないでしょうか。

子どもの支援に携わる上で、支援者自身や団体としてのスキルを高める必要があります。そのためには、「自分たちのことを知る」「子どものことを知る」「他の人たちとつながる」3つのステップが必要と考え「学ぶ場」を作りました。

また、参加した支援者同士のつながりが生まれるような交流の要素も盛り込むことで、自分自身そして団体のことを振り返り、それぞれの強みを活かして活動できるヒントを探りました。

Step.2／2021.11.12

子どもの声を聴くために

講師：飯島 仁美さん／関西女子短期大学 講師



ねらい

子どもの「気になる様子」や「言動」は、その子どもの家庭内等での置かれている状況を把握するバロメーターであり、具体的な関わり方を検討する上で重要なポイントになります。そこで、子どもにどうア

プローチするか、地域や関係機関との連携のあり方について、具体的な事例をもとに学ぶ、「見逃さないで！子どものSOS！～声なき声を、キャッチする～児童虐待防止講座」と題した講座を開催しました。

内容

宝塚市の児童館に長らく勤め、困難を抱えるさまざまな子どもと出会い支援を行ってきた飯島仁美さんより、不登校・LGBTQに関わる事例をもとに、子どもの気になる言動や様子と出会ったときの関わり方についてお話いただきました。①丁寧に観察し小さな違和感をメンバー内で共有する、②子どもの「不安」の背景に寄り添う、③適切な距離感を持って様々な可能性を探る、④まだ見ぬ可能性を信じ、その子の将来をイ

メージして関わる、⑤地域のさまざまな主体が「その子を中心に」つながる、ことの大切さを話されました。後半は、支援者自身の価値観を見つめ直すワークショップを開催しました。6つの価値を表すキーワードを一人ひとりが優先順位付けし、その理由をグループメンバー同士で話しました。自分の考えと他人の考えを知ること、違いを認めるだけでなく考え方が認め活かされている状態の大切さを学びました。

参加者感想

- 多様な子どもを認めて言葉で表せない、子どもの心に寄り添っていききたいと改めて思いました。
- 野生動物のように安心安全と思ってくれるまで信頼して待つ。
自分の価値観は『自分だけの普通』と疑う。
- 多様性に対応できる自分になりたいと思いました。
- 子どもに対して自然体でかかわることの大切さを学びました。

ふりかえり

「網の目の支援ではなく、蜘蛛の糸のような弾力と柔軟性をもったつながりをつくることが大切」という講師のことばが印象的でした。子どもに寄り添うという「温かい気持ち」と、自己理解と相手理解の為の「冷静な目」のバランスの大切さを再認識しました。

公民連携による子どもの居場所づくり

パネリスト:

内田 哲さん / 豊中市こども未来部こども政策課

上村 有里さん / NPO法人とよなかESDネットワーク 事務局長

小池 繁子さん / 生活・学習支援「おもろ荘プロジェクト」代表



内田 哲さん



小池 繁子さん



上村 有里さん

ねらい

居場所を必要とする子どもたちへのサポートには、行政・地域住民・専門家など多様な立場の人たちが、それぞれ得意とすることを活かして協力しあえる関係となって、見守り活動や情報共有をすること

が大切です。「まち全体が子どもの居場所になる」まちづくりに取り組む豊中市の行政担当者、現場の活動者、中間支援団体3名から、協働の具体的なポイントを学ぶ講座を開催しました。

内容

豊中市は「まち全体が子どもの居場所になる」ことを目指し、子どもの居場所づくりの促進や支援者支援に取り組む「子どもの居場所ネットワーク事業」(詳細は右ページ緑枠内)を行っています。背景には、行政の丁寧な計画策定と豊中市の「公民連携の文化の醸成」があるように感じます。

第1部のパネルディスカッションでは、現在の「子どもの居場所ネットワーク事業」を作り上げるプロセスにどのように関わってきたか、3者それぞれの立

場からお話いただきました。

第2部では、パネリストとより深い話をできるように、参加者がそれぞれのパネリストを囲んで質疑応答や意見交換ができる対話の時間を持ちました。対話は3ラウンド実施し、すべてのパネリストと対話ができる環境を作りました。

※パネルディスカッションの内容は、動画でご覧いただけます。

<https://youtu.be/MFgYfpJKjBc>



参加者感想

- 「こどもまんなか」という言葉が印象に残っています。子どもの居場所づくりとしていく上で、これが最も重要な点だと思います。子どもがしたいことを中心に子どもが自立できるようフォローしていきたいです。
- 行政と実施団体との協働・連携においては、密に連絡をとる、直接会うなど、顔の見える関係づくりが必要だと気づきました。
- 常に「子どもの人権を意識すること」の重要性を教えられました。同時に、大人も居場所を探していて、大人も子どもと一緒に居場所をつくることも必要と思いました。

企画担当者より

子どもを地域の真ん中においてた連携や協働を考える上で、「セーフティネット」という視点は外せません。行政と支援者、支援者と支援者の連携がうまく進むためには、目的・対象といったそれぞれの思いを明確にし、尊重し合うことが大切だと感じました。

対話の時間の主なやりとり

行政職員への質問

担当者が異動しても連携は 続けていけるのか？	→ ロードマップを作成し、 それに基づいて事業の連携を行っている。
協働を行う上での 「食い違い」はないか？	→ 意見の相違は常にあるもので、何度もすり合わせ を重ねる努力が必要と両者が一致している。

委託団体への質問

居場所運営者、行政、学校関係者などによる 「こどもまんなか円卓会議・圏域交流会」の メリットは？	→ 資源の共有、ボランティア同士による価値創造。
支援者支援の立場から行政に 期待したいことは？	→ 行政の縦割りを越えて「しくみ」にのせること。

活動者への質問

行政の「使い方」のコツは？	→ 「やらしてもらえない」ではなくわかりやすいオーダーをする。 合わせて「私たちは、これはできます」と必ず言う。
---------------	---

豊中市子どもの居場所ネットワーク事業とは

とよなか全体で子どもを育てることをビジョンに、子どもたちの声や気持ちを受け止め、支援が必要な子ども・家庭を発見して見守り、必要な支援につなぐ『子どもの居場所づくり』を公民協働で推進する体制

を構築。子ども食堂や無料・低額の学習支援などの地域の多様な居場所を支援し、居場所同士のネットワークづくりを行う取り組みとして実施しています。詳細は市のホームページより。



企画担当者 島津恵美より

「自分たちのことを知る」、「子どものことを知る」、「他の人たちとつながる」の3つのステップが「まなびの場」で大事な要素と考え、企画しました。子ども支援を行うにあたってこの3つのステップが土台となり、その土台に支援者や団体なりの「柱」（プロジェクト）を立て、温かい場を保てる「壁や屋根」（ビジョン）を作り、色づけしていくことが『居場所』運営で大事なことではないかと思っています。土台の balan

スを保つことが安心できる『場』の提供へとつながりますが、1つの団体でいきなり完璧なものを作ろうとするのは大変です。土台の重要性を理解した上で、足りないものを補い合っていくためのしくみが「地域のネットワーク」なのではないかと考え、ネットワークづくりの重要性をもっと深めていきたいと考えています。



地域資源が集まる場をつくる

地域の企業とつながる

マックスバリュ西日本「フードドライブプロジェクト」

2022年1月22日(土)10:00-14:00

内容

マックスバリュ株式会社西日本系列のスーパー「マルナカ三田店」2階空きスペースを活用し、フードドライブを実施しました。当日は32名・1事業所が来場し、合計コンテナ5箱分の食品を提供いただきました。

同時開催「子ども縁日」

コロナ禍で子どもの遊び場が減っているとの声をうけ、感染対策を実施した上で「子ども縁日」を同じ場所で開催しました。当日は16組(親18人／子ども24人)の親子が来場し、射的などで遊んでいました。また、食品ロスのクイズコーナーも準備し、啓発活動を行いました。

た。中には、「家に食材がなかったからスーパーで買ったものを提供します」という方も！ いただいた食材は、一人暮らし大学生や市内の子ども・地域食堂に配布しました。

フードドライブとは

家庭で余っている食料品を集め必要とする人にお渡しする、食品を通じた社会貢献活動のこと

[協力] ボランティアサークルbell
NPO法人WELnetさんだ



吉野家「あたたかい牛丼弁当を子どもたちに届けるプロジェクト」

2022年1月19日(水)／2022年2月16日(水)

内容

あたたかい牛丼弁当を子どもの居場所に届ける取り組みを、2022年1月から毎月1回、株式会社吉野家と連携して始めました。吉野家は食に携わる企業として「子どもの貧困」や「孤立・孤食」は看過できる社会課題ではなく、子どもが安心して楽しく食事をできる環境を作ることでその課題解消の一翼を担いたいと考えていました。そこで、牛丼弁当を無償提供

いただき、子どもたちみんなで楽しく食べる場をつくることを圏域内の子どもの居場所に呼びかけ、プロジェクトが始まりました。今後、連携先の地域の居場所を少しずつ広げていく予定です。また、従業員のみなさまを子どもの居場所に招待し、交流する機会も作れればと考えています。

連携先

- ・三田まちの寺子屋「まなびあ」(NPO法人場とつながりの研究センター／三田市)
- ・困窮世帯向け無料学習支援「みかづき」(NPO法人みかづき／三田市)
- ・子ども食堂“みんな集まれ”(上山口東自治会／西宮市北部)

今後、より多くの
連携団体と取り
組む予定です。

地域には、自治会や民生・児童委員などさまざまな活動を行っている人や、飲食店や仕事場などの事業所も多くあります。地域ぐるみで子どもを支えるためには、「子どもを直接支援する人たち」以外の参加も不可欠です。

例えば、人材や拠点などの資源提供のお願いや、組織の「得意とすること」が活かせる機会を提案できるかもしれません。地域の子ども・若者を真ん中に「多様な参加」が生まれる場づくりに取り組みました。

地域の活動団体とつながる

子ども防災イベント「三田わくわく探検たいvol.1」

2021年11月23日（火祝）10:00-12:00

内容・協力

- ・防災食料を食べてみよう！（さんだ防災リーダーの会）
- ・水消火器にチャレンジ！（さんだ防災リーダーの会）
- ・消防車をさわってみよう！（消防団第1分団）
- ・新聞紙で工作しよう！（遊びの伝道師・黒ひげ☆さん）
- ・防災グッズクイズ（子ども食堂「まかないキッチン」）
- ・マンホールトイレを見よう！（三田市危機管理課）

学校にいないときに災害が起きたら、子どもたちが頼れるのは家族や地域住民です。子どもたちと地域住民が顔見知りになり、「いざというときには地域の人が助けてくれる」という出会いと「ここに来れば大丈夫」と安心できる場所の情報を子どもたちに提供するために、「防災」に関わる地域住民に協力いただいて、楽しめるような防災企画を実施しました。

当日は、防災食料の試食や水消火器の放水体験、防災グッズのクイズ、新聞スリッパの工作を行いました。また、消防車に実際に触れたり、公共施設に新しくできた「マンホールトイレ」を見学しました。参加した子どもたちは「実際に触ってみて楽しかった」、「帰ったら家族に話したい!」と話していました。



参加された保護者に、コロナ禍での困りごとについてアンケートを取りました。大きな困りごととは書かれていませんでしたが、「子育て等で困った時に、気軽に相談や手伝いを求めることができる人はいますか?」の問に、「特にいない」と回答した人が11人のうち4人いたことや、「現在、子育て等でお困りごとはありますか? また、知人で困っている人を見かけましたか?」の問には、「実家が遠いため、子どもの病気と仕事の両立が大変だった」、「大半の方は人として向き合う中で困っていると思う」といった気になる回答がありました。このような「直接声を聴く」機会を今後も作る必要性を感じました。



企画担当者 大島一晃より

地域に目を向けてみると、自治会や民生・児童委員以外にも、消防団や防災リーダー（兵庫県独自の防災ボランティアグループ）などさまざまな活動団体があります。「地域の子ども」を中心に、さまざまな人たちが「つながりなおす」きっかけ作りに取り組みま

した。また、SDGsやCSRなど、地域貢献の取り組みに熱心な企業も増えてきました。企業と地域をつなぎ、お互いの得意なことを「借り物競争」のようにお借りし、小さな「こと」が起こせる場をつくることは、これからいっそう大切になると感じました。

一人暮らし大学生への食材支援プロジェクト

ねらい

市内で一人暮らしをしている大学生を対象に、地域住民やフードバンクから提供いただいた食材を渡す「ひとり暮らし学生食材支援」企画を実施しました。三田市若者のまちづくり課が考えていた企画

を、同じ思いを持つ私たちと協働して実行しました。私たちが**このプロジェクトで大切にしていたことが3つあります。**

1 学生の「声を聴く」ことを、何よりも大切にする

経済的困窮や孤独、学生生活への希望の喪失…コロナ禍を生きる学生の実情を私たちは十分に知りません。そのため、ニーズの把握以上に、コロナ禍をどんな気持ちで過ごしているのか「今の気持ち」を受け止める必要があると考えました。

学生がスタッフと1対1で話す時間を、食材配布の前に作りました。自宅と学校とアルバイト先以外に行く場所を持たない学生にとって、なにか困ったときに相談できる人が地域にいるかもしれないと感じてほしいと願い、安心して話せる場を作りました。

2 学生の「次の一歩」を提案する

ここで出会った学生が何かをやりたいと思ったときにコンタクトが取れるよう、市が窓口となって学生の連絡先を収集し、コンタクトが取れるようにしました。また、学生生活の支援を行っている「こみんか学生拠点」の学生ボランティアにも声をかけ、臨時の相談窓口を隣に開設しました。

3 そのために、プロセスから協働する

企画会議は、プロジェクトに関わるボランティア・行政全員が最初から一緒に膝を突き合わせて行いました。それぞれの企画への思いを分かち合うことから始め、メンバー一人ひとりを尊重し、チームとしてつながれることになるからです。

食材の提供

お米は、行政・スタッフそれぞれのネットワークを活かし、市内の農家をお願いをしました。食材は、認定

NPO法人フードバンク関西や、Facebook等での呼びかけを見た市民から提供いただきました。

当日の様子

2回とも想定を超える人数の参加があり、スタッフに自分の思いをたくさん話していた学生が多かったように感じます。それでも、市内で一人暮らしをしている学生のおおよそ30%弱の参加にとどまっており、より参加しやすい工夫や情報の届け方、アウトリーチの必要性を痛感しました。



地域には、地元在住の高校生や大学生がいます。大学・短大・専門学校があれば、一人暮らしをしている学生もいることでしょう。若者一人ひとりの社会貢献意識はとても高まっていると感じますが、地域活動との接点はほとんどありません。彼らの「声を聴く」ために、

ボランティア活動センターなどの公的な相談場所に行くことのハードルを理解し、「接点の持ち方」の工夫が支援者側に問われています。私たちは今回2つのプロジェクトを実施し、地域の若者と接する機会を持つことができました。



インタビュー

千原 洋久さん／三田市若者のまちづくり課
三田市にはおおよそ1300人の一人暮らしの学生が生活していますが、学生は地域とのつながりが希薄であるため、その生活実態についてはよく分かっていませんでした。しかし、コロナ禍において生活と勉学との両立が困難になっている、孤独に陥っているといった情報が、少しずつではありますが私たちのところにも届いてきました。そこで、NPO法人場とつながりの研究センターにお世話になり、一人暮らし学生の実態把握も兼ねて、食材支援を二度実施しました。食材支援に訪れた学生に対し、暮らしぶりや生活費についてのアンケートを行い、やはり一定程度、困窮している学生がいる実態が明らかになりました。縁あって三田で学生生活を送っている彼らに対し、受け入れ都市として地域ぐるみで支えていく仕組みづくりが必要だと共通認識を持てたことも大きな成果でした。フードドライブ活動も行いましたが、お米や食品を提供いただいた市民の皆さんの暖かさにも触れることができ、こうした取組みを一過性のものに終わらせることなく継続・発展できるよう、市民の皆様と対話しながら考えていきたいと感じています。

2021.12.16

高校生との交流会 「“地域に役立つ”の話をしませんか」

ねらい

地域貢献に関心ある高校生を対象に、ボランティアの話が気軽にできる交流会を開催しました。高校生が負担なく参加できる方法をボランティア部担当の先生と相談し、期末試験終了後のタイミングに校内で開催しました。市内の大学に通う大学生が、現在取り組んでいるボランティアサークル活動の紹介と、活動の動機を含めて自身の体験談を紹介しました。ちょっとした出会いや身近な憧れをきっかけに「やってみたい」と思いをもつことや、実行に移すまでの準備期間を大切にしようというメッセージは、参加した高校生の胸に響いたようです。高校生にとって大学生は身近な憧れの存在。「ピア」に近い立場だからこそ伝わるメッセージの大きさを実感しました。また、大学生のリアルな生き方と出会うことで、高校生にとって「進学後の生き方」をイメージすることにつながり、「キャリア形成」の視点から地域貢献を進路指導と絡めてアプローチしていく可能性を感じました。



地域のつながりをつくる

2022.1.20

西宮北部ネットワーク会議

ねらい

西宮北部には活動拠点やサポート組織が十分でなく、点在する子ども支援者同士も「なんとなく知っているけど…」程度の関係性でした。そこで、今後の子ども・若者の支援活動を豊かにするために、お互い

の活動内容を知り、思いを分かち合い、顔見知りになって今後ゆるやかなつながりを持てる関係となるような場が必要と考え、企画しました。

内容

取り組んでいる内容と活動を始めたきっかけ、西宮北部の子ども支援に取り組んで気づいた課題や思いをそれぞれ話しました。旧村地域にニュータウンを作ったエリアでは、自治会や老人会等の活動も維持されており、新旧の住民が共存して暮らしています。しかし、例えば「子ども食堂のような新しい取り組みが必要か」の認識に地域差が大きく、地域一団となって取り組む難しさを感じたとの話がありました。

地域が広範なため、子どもが歩いていける距離に

ますます多くの居場所が必要です。また、不登校や障害、家庭環境等から支援の必要な子も多くいます。高齢住民も多いので、高齢者が地域の子どもの見守りを自然に行えるような多世代交流を想定した居場所づくりが北部には必要だという話が出ました。

支援者同士で、定期的にこのように顔を合わせて話をするのが大切であり、課題を共有し合ったり、一緒に活動をすることで支え合える関係がもてる「つながり」が大切だということを、改めて認識しました。

インタビュー

上山口東自治会 佐藤 勲さん

今回、西宮北部の子ども・若者の支援者同士が、実際に顔を合わせたつながりができたことは、良かったと思います。この関係をより深めていきたいです。現状、それぞれの団体は人的にも、時間と資金の面でも余裕のない面があります。各団体の活動とこの

西宮北部のネットワークを維持していくためには、コーディネーター役はとても大切。生まれたばかりのネットワークを、ゆるやかに続けていく方法をみなさんと考えていきたいと思っています。



ゆるやかなつながりが生まれるためのひとつのキーワードに「地域」があります。そこで暮らす子どもたちを見つめる大人の視点や得た情報は、子どもたちの実態を把握する上でとても貴重なものです。

地域の子ども支援者や市民などさまざまな人たちが集まり、お互いの得意とすることや持っている情報・課題を分かち合いながらより良いアイデアを考える対話の場「地域円卓会議」を開催しました。

2021.12.25～2022.2.26

三田未来地図

ねらい

三田小学校地区には子ども支援に取り組んでいる個人・団体が多くいます。しかし、子ども支援者と地縁団体が接する機会がなく、現場の声がまちづくり活動に活かされていないのではないかという問題

内容

第1回は、さまざまな活動をする子ども支援者同士のつながりを作ることを目的に開催しました。お互いの活動の紹介をする中で、地域とどうつながりをもっていくかが難しいという課題が話されました。第2回は、テーマ型団体と地縁団体とのつながり方がテーマでした。地縁団体は活動団体の実際を知る機会がなく、担い手の高齢化もあり前例踏襲にならざるをえない状況にどう取り組むかを考えました。

インタビュー

三田じばやん倶楽部 大東 真弓さん

共鳴し合うつながりが、まちを変えていくー 誰が中心とか言うわけではなく、自分ができることを自分の思いで語る「三田未来地図」の話し合いを通して、強く実感しています。ガチガチな組織構造と無関心層に対して、これまでは「自分がなんとかしなきゃ」と思っていました、

意識がありました。そこで、子ども支援者と地縁団体のメンバーが集まり、地域の子どもの地域でどう育むかを考える対話の場を企画しました。

それを承け、まちづくり協議会の役員も招待し、お互いの活動内容や目指すものについての情報交換の場を作ったところ、地縁団体側の課題だけでなく希望も語られました。このような思いが集まる場を定期的にもつと同時に、地域住民の「やりたい」を地域の人が知って応援できるような機会を作ることの必要性を確認しました。



何も変わらなかった。みんなが助け舟を出しながらそれぞれの視点で話し合う「思いで共鳴する体験」が、まちにはこれまでなかったのかもしれませんが。共鳴がエネルギーとなるような場をつくるのが、これからの時代のまちづくりに大切だと思っています。

開催イベント参加者数等一覧表

であう場をつくる(P06)

イベント名	実施日	開催地	場所	参加者数	参加者数内訳			
					支援者	学生	行政	支援団体
座談会vol.1	2021.10.16(土) 14:00-16:00	三田市	ほんまち交流館「縁」	11	9	1	0	1
座談会vol.2	2021.11.25(木) 10:00-12:00	北神地域	ふれあいの里おくっちょ	8	6	1	0	1
座談会vol.3	2022.2.5(土) 10:00-12:00	三田市	さんだ市民センター	12	7	3	1	1

まなぶ場をつくる(P08)

イベント名	実施日	開催地	場所	参加者数	参加者数内訳			
					支援者	学生	行政	支援団体
リスク マネジメント	2021.9.22(水) 10:30-12:30	三田市	まちづくり協働センター	17	12	1	3	1
虐待講座	2021.11.12(金) 10:30-12:30			18	15	3	0	0
協働講座	2021.12.9(木) 10:30-13:30			23	14	3	6	0

フードドライブ(P12) [協力店舗]マルナカ三田店

実施日	提供者数	ボランティア
2022.1.22(土) 10:00-14:00	32人、1事業所	5

吉野家(P12) [協力店舗]吉野家176号三田店

実施日	提供先	個数
2022.1.19(水)	子ども食堂 みんな集まれ!	25
	三田まちの寺子屋「まなびあ」	5
	みかづき	5
2022.2.16(水)	子ども食堂 みんな集まれ!	25
	三田まちの寺子屋「まなびあ」	10

大学生食材配布企画(P14)

実施日	場所	参加者数	ボランティア
2021.11.5(金) 16:00-20:00	三田市役所	98	5
2021.11.6(土) 13:00-20:00		66	4
2021.11.7(日) 10:00-18:00		75*	4
2022.1.21(金) 16:00-20:00		129	7
2022.1.22(土) 13:00-20:00		137*	5
2022.1.27(木) 14:00-17:00	湊川短期大学	35	6

*後日引取の人数を含む

子ども防災イベント「三田わくわく探検たいvol.1」(P13)

実施日	場所	参加者数	ボランティア
2021.11.23(火祝) 10:00-12:00	京口公園、 さんだ市民センター	32	25

高校生との交流会(P15)

実施日	参加校	参加者数	ボランティア
2021.12.16(木) 14:00-16:00	兵庫県立有馬高校	4	1

地域のつながりをつくる(P16)

イベント名	実施日	開催地	場所	参加者数	参加者数内訳					
					支援者	地縁団体	学生	行政	支援団体	企業
西宮北部 ネットワーク会議	2022.1.20(木) 14:00-17:30	西宮市	上山口東自治会館	13	6	1	0	3	2	1
三田未来地図 vol.1	2021.12.25(土) 10:00-12:00	三田市	三田じばやんクラブ	7	6	0	0	1	0	0
三田未来地図 vol.2	2022.1.29(土) 10:00-12:00			9	8	0	0	1	0	0
三田未来地図 vol.3	2022.2.19(土) 10:00-12:00			7	3	3	0	0	1	0
三田未来地図 vol.4	2022.2.26(土) 10:00-12:00			11	5	3	1	1	1	0

地域の居場所マップ

「であう場」、「まなぶ場」、「地域資源が集まる場」、「地域のつながりをつくる」の取り組みを通して、裏六甲エリアで活動するさまざまな支援者と出会いました。また、地域で子ども・若者を対象とした活動をする団体や施設を訪問し、活動の様子を聞きました。地域には多くの活動拠点や支援者の存在があり、それぞれ強い思いを持って取り組んでいます。

そこで、子ども・若者を対象に活動する団体や拠点がどれくらいあるのかがひと目でわかるように、「地域の居場所マップ」として情報を整理しました。三田・西宮北部・神戸市北神地域と行政区ごとにまとめました。同じ裏六甲でも、施策や地域環境、社会資源の違いも多様であることが見えてきます。

「子どもが一人でも安心して行くことができる居場所」が、裏六甲エリア全体にますます増えて、それぞれの得意とすることが活かしあえるようなネットワークづくりに取り組みたいと考えています。

*掲載している情報は、2022年2月時点のものです。それぞれの団体の詳細については事務局にお問い合わせいただくか、当団体ホームページ上で掲載している「裏六甲子ども・若者の居場所リンク集」からご覧ください。

https://batotsunagari.net/ibasyo_link/



三田市について

三田市基礎情報

総人口 | 109,538人

20歳以下人口 | 20,206人(若者率18.4%)

65歳以上人口 | 29,603人(高齢化率27.0%)

出典:三田市住民基本台帳(2022年1月31日時点)

地域マップ

三田市

西宮市北部

神戸市北神地域



地域の特徴

南部は旧市街地とニュータウンから成り立ち、北部は里山から成り立つ。	→	南部地域に公共施設や生活に必要な施設が集中している。
旧市街地・ニュータウンに「地域の子どもの居場所」が多くある。	→	地域課題として「ほっとけない」と立ち上がった市民が多い。

子ども・若者が利用できる主な公共施設

多世代交流館ふらっと シニアユースひろば

地域の子どもの居場所

Ⅰ サロンYOU ①

テ — マ | 子ども食堂

場 所 | 武庫が丘

開催頻度 | 毎週金曜日

Ⅱ みかづき ⑥

テ — マ | 学習支援

場 所 | 三田町、天神

開催頻度 | 要問い合わせ



Ⅲ いこいの家さんだ 子ども・地域食堂 ②

テ — マ | 子ども食堂

場 所 | 屋敷町

開催頻度 | 主に第1・3金曜日



Ⅳ あい子どもサロン ⑦

テ — マ | 子ども食堂

場 所 | つつじが丘

開催頻度 | 第1・3金曜日



Ⅴ さんだ地域食堂 ③

テ — マ | 地域食堂

場 所 | 屋敷町

開催頻度 | 最終日曜日



Ⅵ ゆりのき交流室 ⑧

テ — マ | 居場所

場 所 | ゆりのき台小学校内

開催頻度 | 月～金曜日放課後（不定期に土日開催イベントあり）

Ⅶ 三田まちの寺子屋「まなびあ」④

テ — マ | 学習支援（最終金曜日は子ども食堂）

場 所 | 三田町

開催頻度 | 毎週水・金曜日



Ⅷ あっとHOME心 ⑨

テ — マ | 子ども食堂・学習支援

場 所 | 上井沢

開催頻度 | 要問い合わせ

Ⅸ すずらんサークル ⑤

テ — マ | 不登校支援

場 所 | 有馬富士共生センター他

開催頻度 | 月1回土曜日



Ⅹ さんだ★ゆめぱーく ⑩

テ — マ | 野外活動

場 所 | 木器字南下山

開催頻度 | 11時半～14時半（開催日は要問合せ）



この他、立ち上げ準備中の子ども食堂や青パト防犯パトロール、ひきこもり者支援の居場所などの活動があります。

西宮市北部について

西宮市北部基礎情報

総人口 | 42,912人

20歳以下人口 | 7,651人(若者率17.8%)

65歳以上人口 | 12,535人(高齢化率29.2%)

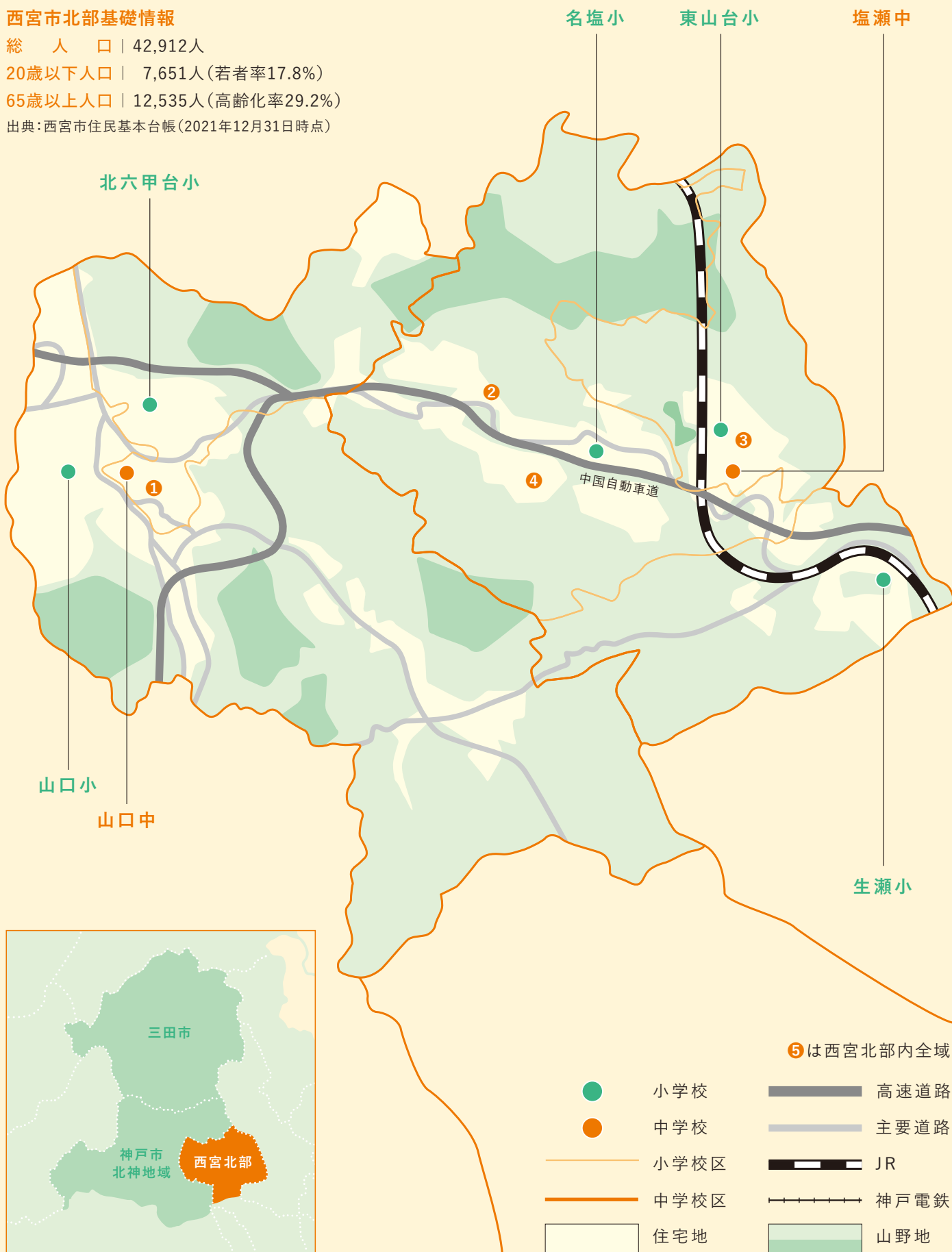
出典:西宮市住民基本台帳(2021年12月31日時点)

地域マップ

三田市

西宮市北部

神戸市北神地域



地域の特徴

1つの小学校区でも バス通学の児童がいる広い校区。	→	公共施設の数少なく、子どもが歩いていける距離に 「地域の居場所」が必要。
新旧の住民が共存している地域。	→	+ 伝統文化の継承に積極的。 - 新旧住民の連携不足、新しい子どもの課題への動きが鈍い。
中心市街地からの物理的な距離。	→	市主催の講座やネットワークへの参加には、 約1時間かけて移動する必要がある。
支援者が点在し、 北部の課題を共有する場がない。	→	西宮市北部の子ども支援者が集まる会議を開催(P16参照)。

子ども・若者が利用できる主な公共施設

塩瀬児童センター、山口児童センター(15歳まで自由に利用できる)。

地域の子どもの居場所

子ども食堂 みんな集まれ! ①

テーマ | 子ども食堂

場所 | 山口町上山口

開催頻度 | 毎週1回(または毎週水曜日)



inecoris (ネコリス) ④

テーマ | ひきこもり・不登校支援

場所 | 名塩山荘

開催頻度 | 火～土曜日



家庭学習応援施設 My Place ②

テーマ | 学習支援・フリースクール

場所 | 名塩茶園町

開催頻度 | 要問合せ



ココロの居場所 ふわっと ⑤

テーマ | ひきこもり・不登校訪問相談

場所 | 西宮北部全域

開催頻度 | 要問合せ



兵庫体験活動ネットワーク「ひだね」③

テーマ | 野外活動

場所 | 東山台周辺

開催頻度 | 月に1～2回



神戸市北神地域について

神戸市北神地域基礎情報

総人口 | 84,230人

20歳以下人口 | 16,815人(若者率20.0%)

65歳以上人口 | 22,195人(高齢化率26.4%)

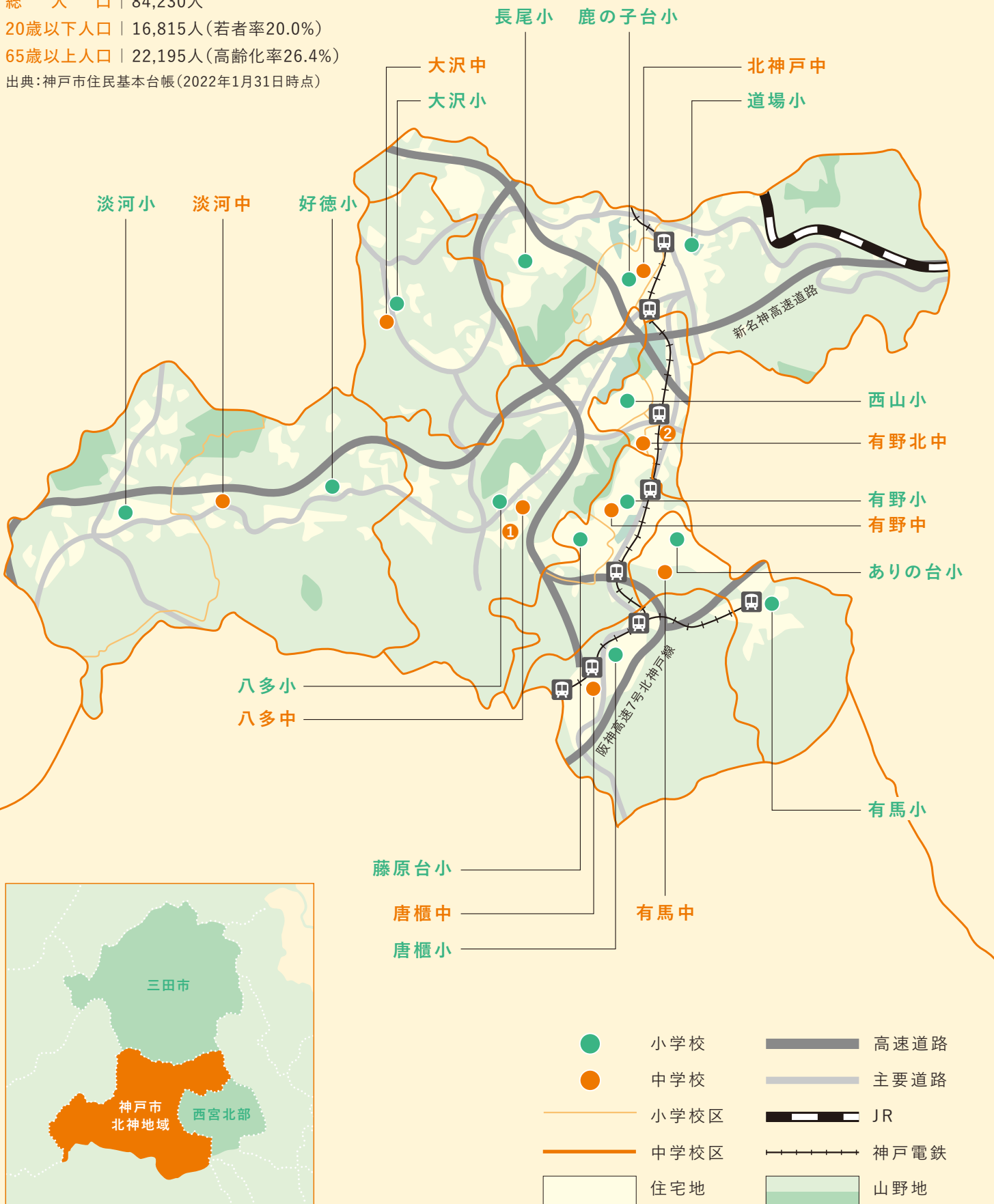
出典: 神戸市住民基本台帳(2022年1月31日時点)

地域マップ

三田市

西宮市北部

神戸市北神地域



地域の特徴

緑豊かな田園地域と ニュータウンが共存している。	→ 校区が広範囲にわたり、通学に不便な地域がある。
各小学校区に児童館がある。	→ 学童保育を児童館が兼ねており、職員が手を取られている。
ボランティアセンターや NPO支援センターが北神地域にない。	→ 「やってみたい」と思いたったときにすぐに相談できる 窓口がわかりにくい。担い手が不足している。
子どもの居場所づくりへの 行政助成金が充実している。	→ ふれあいのまちづくり協議会やNPOなどが活用でき、 立ち上げ支援が整っている。

子ども・若者が利用できる主な公共施設（五十音順）

有野児童館	道場児童館
有野台児童館	長尾児童館
淡河児童館	西山児童館
大沢児童館	八多児童館
鹿の子台児童館	藤原台児童館
からと児童館	ユースステーション北神
好徳児童館	

児童館とは

0～18歳未満の全ての子どもたちが使うことができる、児童福祉法の規定に基づく児童福祉施設。2020年10月1日時点で、全国4,398施設ある。神戸市は小学校区に1つの児童館を開設している。

ふれあいのまちづくり協議会とは

自治会や民生・児童委員、ボランティアグループなど、主に小学校区の地域に関わる団体・個人が、地域福祉センターを拠点に地域福祉・交流活動を行っている地縁団体。

センター管理や事業にかかる経費への助成金が市から出ている。

地域の子どもの居場所

Ⅰ 森の学校つくも ①

テ — マ | フリースクール・野外活動

場 所 | 八多町附物

開催頻度 | 要問合せ



Ⅱ サニースペース ②

テ — マ | 子ども食堂

場 所 | 有野中町

開催頻度 | 毎月第2,4月曜日



成果とこれからの展望について

30の居場所が圏域内でゆるやかにつながるも、まだまだ不足

裏六甲圏域でおよそ30の民間の居場所運営団体とつながることができました。しかし、圏域の子ども・若者にとって選択肢となるにはまだまだ多くの場所が必要です。

今後、地縁団体や社会福祉施設との連携や、新たな担い手の発掘の取り組みを通して、圏域内の居場所が増え、新たなチャレンジへとつながるような仕組みづくりに取り組みたいと考えています。

成果

- 18団体・個人の立ち上げや運営継続のための相談支援を実施。さまざまな資源をマッチング。
- 居場所30団体がつながった。仮に20人ずつ受け入れれば、圏域で約600人分の居場所が確保。

展望

- 子ども・若者の居場所づくりに関心あるボランティアの支援・育成。
- 地縁団体や社会福祉施設特有の課題を踏まえ、子ども・若者支援への取り組みをサポート。

圏域ネットワークだからこそのプロジェクトの実施を

LINE
公式アカウント
@591ufmv

裏六甲圏域でひとつの「まとまり」になるからこそ活かせる取り組みを、ネットワークで実施していきます。LINE公式アカウント「裏六甲子ども支援ネット」を開設し、情報の発信・共有の仕組みを整えました。

また、企業・事業所や士業、福祉・心理職の専門家など多様な「地域資源」を地域の居場所等とマッチングする場をつくり、そのノウハウを共有する体制づくりも進めます。

成果

- LINE公式アカウントを10月に作成、33人登録。助成金やイベントなどの情報を41件発信。
- 企業等からの支援をまとめて引き受け、圏域団体で分かち合いを目指した共同受注環境を整備。

展望

- 企業の強みが発揮できる機会を提案し、企業の思いを地域の居場所や子ども・若者につなげる。
- 多様な専門家の参加と、知見をネットワーク内で共有（講座の実施、ケース会議の開催など）

アウトリーチ支援のあり方の研究を深める！

コロナ第6波では子ども・若者を中心に感染拡大したため、閉じざるを得ない居場所が多くありました。拠点活動ができないときこそ、子ども・若者の声を聴くために「出かけていく」アウトリーチが必要です。

今後、子ども・若者の暮らす地域の地縁団体との連携を含め、居場所が閉じたときにどのような声の聴き方があるか、多様な事例を集め研究を深めていきたいと考えています。

成果

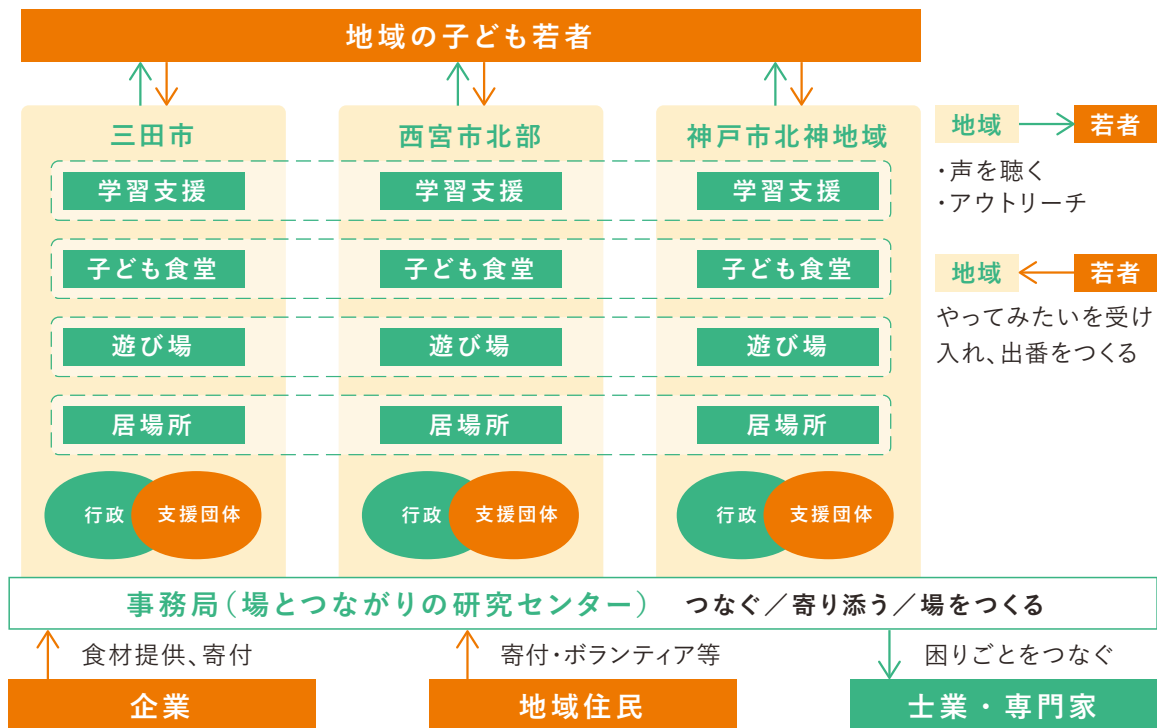
- 交流会や食材提供企画を通して、高校生や大学生と直接出会って声を聴く場づくりを実施。
- 子ども防災イベントの企画などを通して、子ども・保護者双方の声を聴く場づくりを実施。

展望

- 地縁団体と連携し、より身近な拠点を活用しながら子ども・若者の声を集める工夫を検討。
- ボランティア自身の心身の健康を保ちながら実施できる、多様な事例の情報収集と研究。

裏六甲子ども・若者居場所ネットワークのイメージ

裏六甲子ども・若者居場所ネットワーク



ネットワークのポイント

同じ行政区内で「子ども・若者の居場所」に携わる人たちのつながりをつくる（ の枠）

同じ地域でもお互いの活動を知らないことがよくあります。まずは、三田市・西宮市北部・神戸市北神地域の行政区ごとに、「子ども・若者支援」を行う団体や行

政・支援団体などの関係者が顔見知りになり、意見交換ができる地域ネットワークづくりを目指しました。

行政区を超えて、活動テーマが共通の人たちのつながりをつくる（ の枠）

「子ども食堂」「学習支援」など、活動テーマごとに特有の課題や悩みごとが異なる場合があります。しかし、同じ地域に共通テーマの他の団体がいないこともありま

す。行政区を超えて、テーマごとにつながる圏域ネットワークづくりを目指しました。

裏六甲にいる専門家や事業所とのつながりをつくる

弁護士や社労士などの士業や心理・福祉の専門家、地域の企業等の力を借りるにも、1団体だけでは出会うチャンスが限られ、コストが大きくなることがあります。

子ども・若者支援に意欲を持つ専門家や企業を現場につなぎ、1団体で負えない困りごとを圏域で分かち合う関係を目指しました。

子ども・若者の声を聴きあえる関係を裏六甲全体でつくる

地域が子ども・若者の声を聴く「アウトリーチ」を行うことに加え、なにかやりたいと考える子ども・若者たち

が活躍できる場を地域につなぐような、双方向の関係が生まれるネットワークを目指しました。

2021.5→2022.2 メディア掲載一覧表

広報誌掲載

	日にち	掲載ページ	見出し	二次元コード
広報 さんだ	2021.12	P.36	地域で輝く人に聞く SUN(さん)だな人 「大島 一晃さん(三田町)」	
	2022. 2	P.32	未来へSDGs の種をまこう!「こんなところにSDGs」 ～一人暮らしの学生に食材支援	

新聞記事掲載

	日にち	掲載欄	見出し	二次元コード
神戸 新聞	2021.9.26 朝刊	地域欄	被害は弱い立場の人に集まる 大災害時の危機管理、復興庁参加が講演	 *
	2021.11.14 朝刊		困窮学生236人に食材無料配布 想定は100人、数足りず後日提供も 三田市とNPO法人	
	2021.12.23 朝刊		学生に食料支援を 米やレトルト食品など、 住民らが市に寄贈 三田・小野地区	 *
	2021.12.30 朝刊		子どもの居場所づくりを 支援団体など意見交換	
	2022.1.14 朝刊		学生や子ども食堂、食材通じて支援 三田市とNPO企画、22日「フードドライブ」	
	2022.1.20 朝刊		1人暮らしの学生対象に食料配布、 米3キロやレトルト食品など 三田市役所で21、22日	
	2022.1.31 朝刊		湊川短大生に食料配布 三田市とNPO法人、コロナ困窮者支援	 *
読売 新聞	2022.1.21 朝刊	地域欄	三田の学生に食料支援 市とNPO きょう、あす、27日	
毎日 新聞	2022.1.21 朝刊	地域欄	余った食品役立てて 三田・あす「フードドライブ」	
朝日 新聞	2022.2.23 朝刊	地域欄	ひとりじゃないよ 食にこめて～コロナ禍 コメや缶詰、 紙袋いっぱい一人暮らしの学生へ 三田市とNPO配布	
時事 通信社	2022.1.31	インターネット 行政情報モニター [iJAMP]	コロナ禍で頑張る「一人暮らし学生」をまちぐるみで応援します ～フード・ドライブと食材支援、 「お食事クーポン」事業～兵庫県三田市	

二次元コードの右上に*マークがある記事はWeb有料会員のみ全文閲覧可の記事です。

その他メディアへの出演

	日にち	出演時間	二次元コード
兵庫県立有馬高校ホームページ	2021.12.16	14:00-15:30	
コミュニティFM「HONEY FM」に出演	2021.12.21	15:15-15:45	

伴走支援者からのことば

千馬 雅史／公益財団法人信頼資本財団 プログラムオフィサーサポーター



今回、休眠預金活用事業のコロナ緊急枠の伴走支援者として、場とつながりの研究センター様を10か月間、伴走支援をさせていただきました。短い期間でしたが、同団体が地域において本当に重要な役割を果たしている団体であることを強く実感しました。伴走支援者として関わらせていただいたことに本当に感謝申し上げます。

同団体は、自分たちが実行団体として実践した食料支援や子どもの居場所づくりの知見、保有するネットワークを中間支援団体として他のNPO団体にも共有しています。これから新たに寄り添い人として団体を立ち上げたいという熱いビジョンを持った方々を発見し、支援していく動きに更に期待します。今回、休眠預金活用事業のコロナ緊急枠として採択されたことで、兵庫県三田市、神戸市北神地域、西宮市北部エリアの寄り添い人育成及び団体の支

援活動、コロナ禍で困窮した学生の食料支援、外国人労働者困りごとや実態をより正確に把握することができました。10か月間に及ぶ実行団体としての活動を通じて得た新たな知見を更に発展、拡大させることで、新たに地域で寄り添い人をしたいという方の声を拾い上げ、組織づくりを応援していくという活動を広げて欲しいと願います。

また、中間支援団体として、今後の地域社会においてより重要な役割を果たしていくと感じます。関係性が希薄になる今の時代だからこそ、同団体が活動を広げ、認知度を上げていくことで新しい出会いと強いネットワーク作りを広げていただけると嬉しいです。想いを持った方の共感の輪を拡げること、そして困っている方が必要なときにいつでもSOSを出せるような世代間を超えた地域での関係性づくりを推進する役割として期待しています。

プロジェクトメンバー

大島 一晃／法人理事 事務局長 プロジェクトリーダー

小宮 真希／子ども・若者居場所コーディネーター

島津 恵美／子ども・若者居場所コーディネーター

本田 文代／国際事業部部長 北神日本語教室コーディネーター

ドウ・シ・ハ・エン／国際事業部スタッフ



*左から順に、大島・小宮・島津・エン・本田

なお、本プロジェクトでは、在住外国人を対象とした「新型コロナウイルス影響下での、神戸市北神地域・三田市・西宮市北部に暮らす在住外国人の生活と労働についての実態調査」も実施し、報告書を作成しました。詳細は右の二次元コードからダウンロードできます。





特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター

〒669-1533 三田市三田町29-14 (三田本町通り商店街内)

☎ 079-553-2521 📠 079-553-2522 電話受付時間 10:00~17:00 (日・月休み)

<https://batotsunagari.net> ✉ info@batotsunagari.net

※本事業は、休眠預金等活用新型コロナウイルス対応緊急支援として(公財)信託資本財団が行う助成事業により実施しました。



休眠預金活用事業